

2021年度 松蔭中学校・高等学校 自己評価報告

松蔭中学校・高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2021年度学校自己評価」を報告するものです。

①自己評価は次の14 領域（部署）で実施しました。

- ・各学年団（中学1・2年GS/中IDS～高校3 年の6 学年 7領域）
- ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会 7領域）

②評価法

- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定しました。
- ・年度末に、実践内容について評価しました。
- ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階としました。

③改善・向上策・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載しました。

学年の部

2021年度 中学1年・2年 GS

学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学GS	目標	目標の理解と実践	「Know the World: Embrace the Unknown. 世界の有り様を知り、未知との遭遇を楽しみましょう」という目標の意味と中高 6 年間での位置づけを説明し、新しい知識との出会いを楽しみ、知的好奇心を高めるように取り組む。	何かある度に目標を引用して今の自分たちの位置づけを説明した。また、中学1年生は知識をインプットする時期で学ぶことが多いが、それが〇〇につながるや〇〇と関係している、また〇〇で面白よね?など、好奇心を掻き立てるような声掛けを行い続けた。	B	色んなことができるようになったことで生徒たちは自信をつけたように見えるが、まだちょっとでも難しいと感じるようなことがあれば、諦めてしまいそうになる。今後も知的好奇心を高める工夫を行いながら、その背中を常に押すサポートを続けたい。
	生活指導	指導方針の確認 指導体制の推進	校則については年度初めに教員間で確認、また迷いが出ればその都度、確認する。安心できる学習環境が一番、何かが教室で起こっているようならすぐに教員内で報告相談連絡。	教員間で常に生徒状況を報告し合い、校則については指導の統一ができるように、また不安をかかえている生徒がいるなら、その指導について話し合い、生徒や保護者が安心するよう取り組んだ。	A	教員間で話し合い、指導について共通理解ができた。（正解かどうかは分からなくとも）、生徒にとって常に最善の方法を教員間で常に話し合い、実践できた。
	学習指導	普段の指導	朝の音読により語彙力を伸ばし、ポートフォリオで自己を振り返る。また普段からの声や担任との面談を通して、基礎学力の定着及び、学習意欲を向上させる。	終礼で宿題の確認を行ったり、クラス全員で定期考査に向けて「やるべきリスト」を作ったり、実力考査の振り返りのノートを作ったりと、とにかく何のために、何をすべきか、また反省点は何か分かる振り返りの機会を多くとった。	A	中学の段階では当たり前のようにこの振り返りをできるようになるまで、生徒に伝えていくことが必要。今後も声をかけ続け、常に何のために、何をすべきかを意識させ続けたい。
		音読		小説で叙情的な言葉を覚えたり、ニュースで時事表現を知ったりと多様な文章を扱うことで語彙力や表現力を伸ばした。また演技指導も取り入れ身体的な表現をも養おうと取り組んだ。	B	次年度は、新しい語彙を知るための音読、表現する音読、定着すると音読と3つに分けて、実践する。飽きがこないよう、色んな仕掛けを組み込みたい。
		ポートフォリオ		チームスで教員と対象生徒のみが閲覧可能なエクセルファイルを作成し、そこに定期考査、実力考査、評定をまとめた表や約 20 項目の一问一答型の振り返りポートフォリオを作成した。情報を集約しすぐに振り返られるようにした。	A	生徒たちは作成したシートに記入できるの取り組みとしては◎だが、教員側でのチェックに時間がかかる。もう少し、効率よくチェックできるよう方法を改善していきたい。
		教科横断		各学期に3つずつ教科を横断するテーマやスキルを設定し、取り組んだ。	A	初めての取り組みだったが、効果を実感した。より良い形に仕上げていきたい。
	GL探究（総合）	Specialist（プレゼンテーション）	あるテーマについて学校で1番、教員も敵わない知識を持つことが目標。かつ、パワーポイント(PPT)を用いてプレゼンテーションを行う。	①学期プレゼンテーマ J1「企業取り組み SDGs」 J2「日本の SDGs の弱い部分」 合同「社会を変える取り組み」	A	PPT を用いたプレゼンテーションの型を習得することができた。回数を重ねるごとに生徒たちが明らかに場慣れしている様子が見えた。3 学期には PPT だけでなく、英語動画まで編集して作成することができた。内容面でも目標の通り、教

				②学期プレゼンテーマ 合同「日常のなぜ～さらにその先へ～」 ③学期プレゼンテーマ 「好きなこと全力アピール」 J1 は日本語、J2 は英語		員が知らないような知識まで調べあげて発表した。教員の期待以上の成果を出した。
		Discussion &Debate （ディスカッション &ディベート）	生徒同士で話し合い、知識を深める。その後、小論文を作成し、生徒同士で相互評価や教員からフィードバックを受け、さらに良いものへ仕上げる。	中学 1 年 GS 自動運転の賛否、レジ袋有料化の賛否、 既読スルー、割り箸の賛否、動物園の賛否 防災バッグ 30、 English Central 英語動画作成 中学 2 年 GS 新しい教科を作るなら何？、出生率の問題と 改善案、N I P T の賛否、 The Cove がアカデミー受賞の賛否 Youtuber の分析 English Central 英語動画作成	B	これまでに考えたことがあるものや身近なものに関しては深い部分まで考察できるが、多角的な分析が必要なテーマに関しては、まだ知識や足らず、事前学習の設定を念入りに行う必要がある。それと同時に、教員側の問いの設定を見直す必要を感じている。難しいテーマの場合は、より身近な言葉や問いにしてから取り組むよう再度、調整する。
		Events （行事企画運営）	①奉仕活動の日、②校外学習（教員主導）、③校外学習（生徒主導） 学内行事ではその意図を見極め、適切なものを考え出し、実行する。教員主導のものは、学んで欲しいもの、生徒主導は、自分たちで計画実行し、学びをデザインする。	①学期 ⇒コロナ禍により実施できず。 ②学期 J 1 GS 大阪民族博物館、有馬 J2GS 須磨水族館&総合運動公園 奉仕活動の日 米ぬかで動画作成 ③学期：火起こし	B	今年度は自分たちで企画するものが 1 つしか実施できなかった。ただ、企画段階からみていると、「自分たちが学びたい事」というのは漠然としすぎ、目的設定を行いにくいように感じた。来年度は、テーマを設定してからの企画というように目的意識を上手く導けるよう取り組みたい。
		News （時事ニュース）	時事ニュースを習慣的に読み、世界の実状を知る。また、ニュースで使われる語彙表現を学ぶ。	気になるニュースを毎週、自分のことばでまとめ、感想とキーワードとなる言葉や用語を書く。その後、クラスでニュースやキーワードを共有し、日本や世界の現状を知る。	B	取り組みましようという声かけだけではただの課題となっているように感じた。来年度は、学校という場で取り組み、意見を共有する場を作る。
	ミカエル国際学校連携	GSM 土曜日講座 ミカエル連携授業	ミカエル国際学校と連携し、インターナショナルな環境で授業を受け、英語で何かを学ぶイメージ教育を行う。教科横断のカリキュラム内容を松蔭側と相談の上、決定して効果的な授業を行う。	満足度調査などで生徒の様子を確認しながら、松蔭側の要望や現在の生徒の様子(英語レベル、英語の取りくみ、ICT スキルなど)をその都度、報告した。	C	生徒及び保護者の満足度が今年度も低い。日本語を使ってしまうたり、パターンが同じだったりで工夫が必要。次は 3 年目、楽しくなるようなプログラムになるよう調整していきたい。
	実社会	実社会とのつながり	企業と連携したり、外部コンテストに応募したりで、学びを松蔭という枠だけにとどめず、外の社会とつながる取り組みを行う。	「防災バッグ 30」の開発先である株式会社山善より生徒小論文へコメントを頂きフィードバック。 English Central Award 2021 応募 有馬の欽山旅館で「おもてなしと SDGs」の研修	A	実際の企業と連携して学びを深めたり、学外コンテストに応募したりで今後も実社会とのつながりを直に意識できる取り組みを多く行いたい。

中学 1 年 D S

学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学一年DS	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「彩」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げる。	B	・しっかりと取り組めた場面もあったが、常に意識をするところまではいかなかった。継続して粘り強く声掛けをしていく。

	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 学年団全体で生徒を見守り、必要に応じて保護者とも電話・メール・面談などによって連携をとる。 2. 教員間で、情報交換をこまめにおこなった。保健室・相談室との連携も心がける。	A	・風紀面や生活のルールは守れる場面も多いが、放課後にルーズになりがちであった。さらに徹底させていきたい。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。 2. 朝礼前の5分間を「学びのとき」として、国語・数学・英語の基礎的な内容と、手帳の活用のための時間とする。 3. 各考査後に成績不振の生徒に対して補習を実施する。 4. 数学の成績中上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講する。 5. 2学期以降、全員受験の実力テストと、希望者による実力テストを学期ごとに実施する。	B	・手帳の取り組みは個人によって差があった。共通して取り組む部分をきちんと定着させることができるようにしたい。 ・補い生徒の補習は英数国の3教科を中心に実施した。効果が実感できていないところもあったので、さらに工夫していきたい。 ・希望者による実力テスト参加者は2、3学期ともに一定数を確保できた。次年度もモチベーションが落ちないようにしたい。
	総合学習	以下に取り組んだ。 1. マナー 2. 心のマナー 3. S D G s	1. マナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. コミュニケーション上の問題が多い時期であることを念頭に、他者を理解しつつ、上手に自己主張を行えるようにする。 3. S D G sについて調べ、理解を深める。	1. 公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを学習する。 2. スクールカウンセラーによる「心の授業」を各学期に実施する。レジリエンスや人間関係の緊張を緩和する方法について学ぶ。 3. ユニセフが発行している中学生向けのパンフレットを利用して、S D G sについての調べ学習をする。	B	・各クラスで話し合ったクラスの安心ルールを実践面に結びつけるところまではできていなかったように感じられる。 ・スクールカウンセラーによる講座は生徒に分かりやすく、実際に役立つ内容であった。日常的な指導と結び付ける意識を教員が持つ必要がある。
	行 事	1. 夏のキャンプ 2. 秋の校外学習 3. 芸術鑑賞	1. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 2. 地域の産業、歴史に触れる 3. 臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。	1. 集団での過ごし方を意識する。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうようにする。 2. 秋の校外学習では丹波篠山を探訪する。立杭焼き体験と史跡訪問をおこなう。 3. 3学期に予定していた「わくわくオーケストラ」参加は、感染症の影響で中止となる。	B	・夏のキャンプは、感染症の影響で1泊となり、卒業生のキャンプリーダーの参加がない形で実施されたものの、友人と協力して集団生活を送ることを学ぶことができた。 ・校外学習では生徒たちは意欲的に取り組んだ。教科指導につながるかどうかにかかわらず、これからも体験する機会として大事にしていきたい。 ・芸術鑑賞は個人で触れることが少ないので、その機会を確保していきたい。

中 2 D S

学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
DS	ストリームの目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「生き抜く力、思いやる心」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	学年集会・DS 通信・HR 等で機会があるごとに触れるとともに、目標を意識しながら指導にあたった。	B	単年の目標ではないこともあり、定着には時間を要するが、常に意識を持たせるように、場面場面で継続して粘り強く声掛けをする。

	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	1. 授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限のメモ、学習計画等に手帳を活用する習慣を身につけさせ、時間管理・自己管理に繋げる。 2. 成績下位層の生徒に対してサポートを行い、底上げを図る。 3. 応用・実践力を試す機会を設け、入試等の問題を解く力をつけさせる。 4. 成績上位層の生徒に対してサポートを行い、学習意欲と能力をさらに伸ばす。 5. 情報収集、要約、発信力を鍛え、社会で必要となる能力を身につけさせる。	1. 朝礼前の5分間を「手帳の時間」として設定したほか、授業やHRでの連絡の際に手帳に書かせるなど、手帳の活用を習慣づけるようにした。定期・実力考査前には「やることリスト」を作成させ、学習計画を手帳に落とし込ませた。 2. 定期考査の成績不振の生徒に対して、考査直後と次回考査前で実施時期を使い分けて補習を実施した。 3. 全員受験及び希望者による実力考査を学期ごとに実施し、解答配布後には解き直しをさせた。また、実力考査の重要性を要所で伝え、意識付けを行った。 4. 数学の成績上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講した。 5. 世の中の出来事について調べ、要点をまとめ、意見・感想を書く「MY NEWS」を毎月2枚ずつ提出させた。よくまとめられた内容のものは廊下に掲示した。	A	1. 取り組みは個人によって差がある。個人に任せず全体で書かせる時間を増やし、手帳の利用を定着させ、時間管理・自己管理に繋げていきたい。 2. 引き続き効果的な補習を行っていく。 3. 実力考査を実施する以外にも、応用力をつけることを意識した授業を行っていく。 4. 次年度も引き続き開講し、上位層の学習意欲と能力の向上を図る。 5. 提出させるだけでなく、添削などの内容に関するフォローを行うことで、書く力もつけさせたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 服装・頭髮等の風紀面について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 2. 携帯電話やタブレットの使い方について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 3. 生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談やその後の生徒対応に活かす。 4. 新型コロナウイルスの感染予防対策を行うとともに、生徒に対して適切な指導を行う。	1. 本校の規定に照らし合わせて適宜指導した。 2. 本校の規定に加え、学年でもルールを定め、学年集会・DS通信・HR等の機会があるごとに周知し、指導した。 3. 1学期は実施できたが、2学期3学期は実施できなかった 4. 手洗い・マスク・換気・昼食時の声掛け・指導はもちろんのこと、国内英語研修の訪問施設から求められることもあり、Classiの健康観察アンケートの入力を徹底した。	B	1. 風紀面についての乱れはほとんどなかったが、今後も必要な指導を継続していく。 2. ルールを意識しながら使用できる生徒が多くなったと思うが、引き続き粘り強く指導していく。 3. 次年度は学期に1回実施し、生徒対応に生かす。 4. 声掛けをしないと対策がおろそかになる生徒がまだいるので、意識づけ、習慣づけるように粘り強く指導していく。
	総合学習	「いのち」についての学習	1. 命を授かるということをテーマに、その偶然性や大切さを理解させ、「生」について考えさせる。 2. 病を抱えること、障がいを持つこと、死を迎えることなどに向き合うことで、「死」について考えさせる。 3. 障がいを抱えて生きる人や死を看取る側の人など、「生」や「死」に関わる様々な立場の人に触れることで、「生き方」について考えさせる。	1. 様々な夫婦にまつわるドキュメンタリー映像の視聴を通して、命を授かることが簡単なことではないということ、生まれてくる命が万全とは限らないことなどを自覚させるとともに、命を授かることには大きな責任が伴うことを理解させた。 2. 様々な体験をもつ人の話を聴き、生きることの有難さを実感させるとともに、いつかは死ぬということも実感させ、限られた時間を生きていることを意識させた。 3. ドキュメンタリー映像を視せたり絵本を読み聞かせたりして、自分という存在が限られた時間の中の大切な1つの命であるということを感じかせ、自分がどのように生きていくべきかを考えさせた。	A	1. 今回感じたことや考えたことを大切にし、将来命を授かる際に生かしてほしい。 2. 死から目を背けるのではなく、死にも向き合うことで、生きることの大切さをより実感してほしい。 3. 命や時間の大切さを実感することによって、今やるべきことをしっかりとやり、考えをもって生きていってほしい。
	行事	1. 春の遠足 2. 秋の校外学習 3. British Hills 国内英語研修	1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2. 鉄道事業の社会的意義や歴史及び水の恵みによるいのちの共生に触れ、学ぶ。 3. 授業で学んだ知識を活かしつつ、英国文化を体感し、英語に親しみながら英語力を高める。 4. 学年全体で取り組み、社会の	1. 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 2. 京都鉄道博物館及び京都水族館を訪れ、実物を見たり触れたりして多くのことを学んだ。 3. 新型コロナウイルス感染症の影響により、一度延期して年度内の実施を試みたが、最終的には中止することになった。	B	1. 次年度の取り組みの中で自然に触れていきたい。 2. 生徒達は意欲的に見学していた。感染状況も落ち着いていて、実施できて良かった。 3. 楽しみながら英語力を高めるプログラムであったのと同時に、集団生活における規律や協働について学ぶ良い機会だったただけに残念だった。 4. 多くの贈り先から感謝の言葉を

		4. 奉仕活動の日	ためになる活動を行う。	4. 医療従事者や普段からお世話になっている施設や団体に対して、松ぼっくりツリとお礼や応援メッセージを作成して贈った。		いただくなど、こちらの活動に対する反応も感じる事ができて、良い取り組みになった。
領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	その他	ICT の活用	1. 授業や総合学習、HR 活動等で活用していく。 2. ICT を利用した学校活動を通して ICT リテラシーを向上させる。	1. 教科やクラスの連絡ツールとして Classi を活用しているほか、一部の授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり課題をさせたりしている。 2. I の利用を介して必要なスキルを身につけている。	A	1. 授業での活用の余地はまだまだあるので、今後様々な教科での活用を推進していきたい。 2. 授業支援アプリの利用やオンライン授業を通して ICT リテラシーは向上しているが、今後は資料作成やプレゼン等のスキルも向上させていきたい。

中学 3 年

学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学 3 年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	・「あなたの心を諭しの言葉に、耳を知識の言葉に傾けよ」	1. 目標は教室と廊下に掲示。 2. HR 等で取り上げる。	B	より能動的に話を理解しようとする姿勢を持たせたい。話を聞いた後のアウトプットを引き出す仕掛けが必要。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	・学年団で生徒指導に関する目線合わせをした。 ・学校全体で決められたことを丁寧に指導する。	1. 学年団の教員で、生徒の様子を見守り、担任を中心に保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。 2. 教員間で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行い、保健室・相談室との連携にも心がけた。	B	生徒間トラブルは一様に原因特定から解決のプロセスを踏めるものではないので、粘り強く、時間をかけて対応していく。 生活指導は全教員が同じことを同じタイミングで必ず指導できればよりよくなる。
	学習指導	中学 3 年生としての基礎学力の定着と中学 3 年間の総復習・総まとめの実行	・中学 3 年間で学んだことを復習し、整理する。 ・高校進学を前に、自主的な学習ができるように促していく。 ・「基礎学力判定試験」に対して、しっかり取り組むよう指導する。	1. 週初めの朝礼前の 5 分を手帳タイムとし、自分のスケジュールの把握につとめ、計画的に学校生活が送れるよう工夫させた。 2. 3 学期から各検定、試験に向けて朝礼前の 5 分間、プリント学習を実施した。 3. 定期考査の成績不良者に対し、補習を実施した。 4. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に 1 回ずつ実施した。 5. 全員受験の実力考査前に対策講座を、希望者実力後に解説講座を実施した。 6. 夏期講習期間に国・数・英の講習を実施した。	B	学年の後半には学習に対する危機感が出てきた生徒も増えてきたが、場当たりの学習になっているように見える。長期的視点を持ち、学習計画を立て、進めていける力をつけさせたい。こちらからも 1 年間の流れが見えるような形で補習等を設定する。
	総合学習	「平和」についての学習	・「戦争」「平和」というテーマを考える。	1. 紛争地域で難民支援に従事している方から現代の紛争問題の現状について学んだ。 2. 「戦争の恐ろしさはなにか」という観点に立ちながら、映像を視聴しまとめ学習を行った。 3. 被爆者講演会を実施し、戦争の現実について実体験を聞く機会を持った。 4. 班ごとに自分たちが興味を持った紛争、戦争について調べ学習をし、クラス内でポスタープレゼンテーションを行った。	A	どの活動に対しても熱心に取り組めていた。理解の深さやアウトプットの力には個人で差が見られた。より深く考え、それを表現できるよう仕掛けが必要である。

				5. 1年間の活動を振り返り、「平和」について考えたことを文章で書く。		
	学年行事	1. 修学旅行 2. バザー 3. 秋の校外学習	1. 長崎県を中心に、自然や歴史にふれる。 2. クラスでエ夫・協力しながら、おもにゲーム系の売店を担当。バザーに協力する。 3. 大阪港湾地域を訪れ、海洋資源について学ぶ。	1. コロナウィルス感染症予防のため、実施できず、代替旅行として京都を訪問した。 2. コロナウィルス感染症予防のため実施できず。 3. 海遊館を見学後、観光船で大阪湾を周遊した。	A	当初の長崎での修学旅行は実施できず、行先と期間を変更した。秋の修学旅行とあわせて、感染症対策とのバランスをとることに苦慮した。いましばらくこの状況下での行事が続くと思われるが、教員、生徒、保護者と共通理解を持ちながらすすめていく必要がある。

高校1年

学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校 1 年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	・自他を大切に	1. 目標を教室と廊下に掲示。学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。	B	様々な時間で、目標を意識した言葉がけがなされている。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	・年度が始まる前の会議で、生徒指導へのスタンスを確認。 ・常に学年団で生徒の様子を伝えあい、情報を共有する。公式の会議ではない場面でも、生徒の話を教員間で交わす。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。特に新入生には適切な配慮を行う。 3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行う。	A	・生徒の情報を教員間で共有し協力して取り組むことはできたが、より迅速に対応できるよう意識を高めていきたい。 ・保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導できるよう、より一層細やかなやり取りを続けていく必要がある。
	学習指導	高校1年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	・ICTデバイスを使い、連絡をこまめにしながら、自分で学習スケジュールを管理することを目標とする。 ・学校での授業はもちろん、家庭学習などの「自主的な学習」時間を増やしていく。 ・進路に向けて具体的に組み組めるよう、さまざまな情報・機会を与える。	1. 朝礼時にiPadを利用しながら、興味のあるニュースをしらべる、英語講座を視聴するなど身近な学習機材として利用する。 4. 全員受験の実力考査を年に3回、スタディーサポートを年2回実施。 5. 土曜日3時間目の「課題学習」の時間を有効に活用する。Classiの学習動画を利用したり、自分に合った学習内容・学習材料を各自で用意したりするなど、自主的に取り組む。また、オンライン英会話での実践的な学びの機会を得る。 6. 実力考査後の復習講座や長期休暇中の進学補習、3学期進学補習など実力養成のきっかけづくりをする。 7. 冬休みに星空観察合宿を実施。	B	・手帳でのスケジュール管理に変わり、iPadを使用する人が増えてきた。うまく利用できている生徒もいるが、学習教材として十分には利用できていない生徒もいる。また、自主的に学習できる生徒も増えてきたが、まだまだ質の高い家庭学習を習慣化するところには至っていない。面談等を利用して、進路指導と並行しながらさらに自覚を促す必要がある。
	総合探究学習	「生き方・進路」についての学習	・進路シミュレーション・進路講話などを通して、具体的な進路選択を探る。 ・社会に目を向けた生き方に気付く。	1. 進路実現のために、進路選択・オープンキャンパスへの参加・学問研究の講習などを実施。「進路の手引」や「夢ナビプログラム」を利用し、各個人の進路について説明の時間をとった。 2. 2学期には社会人の先輩の生き方から学ぶをテーマに進路ライブを実施し、3学期には生徒同士による「ピアカウンセリング」を行う。 3. 広い意味での「進路=人としてどのように生きるか」についても考える時間を設けた。ユニークフェイス講演会、映画『風邪をつかまえた少年』を鑑賞。また高1 ACTIONとして国際貢献活動の第一歩を体験。 4. 主に環境問題を通して社会と関わるBlue EarthProjectのOGによるキャリア学習、外部から講師を招きSDGsワークショップを実施。	A	・感染症の影響により「夢ナビプログラム」、オープンキャンパスなどオンラインでの参加となったものが多かったが、かろうじて「学問研究」「進路ライブ」や「SDGsワークショップ」は外部から講師をお招きすることができ、実りの多いものとなった。やはり可能な限り対面式で行えるよう企画する必要がある。 ・高1 ACTIONは限られた時間の中での活動であり、生徒のモチベーションに開きがあるなど反省点も多く見られた。その反省を生かし、3学期は各個人で企画書を作成。それらを冊子にし、次年度の高2 ACTIONにつなげていけるよう、取り組み中である。
	学年行事	校外学習	・教室を離れ、のびのびと社会に触れる。 ・特に高校から入学してきた生徒たちが、在校生と知り合える機会をできるだけ確保する。	1. 秋に奈良・東大寺周辺の校外学習を実施。前半は全員で東大寺を見学。後半は各グループで周辺の寺院、神社などを見学。 ＊春の遠足はコロナウィルス感染症の影響により中止。	B	好天のもと、のびのびと散策することができた。春の活動は、今年度は実施できなかったが、高入生の子どものたちのことを考えると、年度の早いタイミングで行われることが望ましい。

高校2年

学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校 2 年	学 年 の 目 標	学年の目標の理解と実践	・人はそれぞれの歌を持つ ・星に届かないことは恥ずかしいことではないが、手を伸ばす星を持たないことは恥ずかしいことだ。	1. 目標は教室と廊下に掲示。学年集会や学年だよりで、できるだけ話題としてとりあげた。高2となり、自分なりに進路をどうするか、決めかねる生徒も多い中、「手を伸ばす星」はどこにあるのか。それに届く、届かないは別として真剣に考えてもらいたいと、生徒に伝え続けた。 2. 学年だよりは月2回発行をめぐに、毎号朝礼等で学年主任が生徒に直接訴える形をとっている。	A	昨年は「人生の課題」というフレーズを多用したが、今年度も言い方は違っても、同じことである。特にコース選択や科目選択など、なかなか決めることは容易ではないが、それでも目標は各自で設定してほしいということ。コロナ下でなかなか全体に訴える場を設定するのが難しかったが、毎回の学年だよりでも、言葉を変えながら同じ趣旨のことを生徒に語り掛けることはなんとかできたと考える。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	・コロナ禍での学校生活が、安全・安心な状態で過ごせるよう、従来の生徒指導・生活指導に加えて、特に衛生面や三密回避に配慮しながら、生徒を見守る。 ・生徒指導へのスタンスを学年団で共有しながら、生徒の個々の様子にも目配りを忘れず、真に生徒の向上につながるよう生徒一人一人への柔軟な対応を心がける。 ・学年団で生徒の様子を伝えあえる雰囲気、普段から作っておく。公式の会議ではない場面でも、できるだけ多く生徒の話や意見を教員間で交わすように心がける。	1. 教員の様々な価値観の中から共有できる点を議論。学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。 2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。 3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をひんばんに行なった。	B	・コロナ禍となり2年が過ぎ、生徒も「慣れた」ようにも思える。しかし、学校生活のリズムを乱し、またオンライン授業に親和性を持ち、対面を苦手とする生徒にとっては、実際に学校で授業を受け人と交わることへのハードルがあがったという印象がある。より綿密に生徒の気持ちを探り、適切なアドバイスがさらに求められる。とは言え、特に2学期以降、生徒・保護者や教員の感染が拡大し、上記の取り組みが十分できたとは言えない。コロナ禍の時代、学校の役割は何か、対面でしかできないことは何か、教師・学校として、何を大切にしていけるのか、今一度考えるべき時だと思われる。
	学習指導	高校2年生として、自分の進路や人生の目標などを考えながら、どのように学ぶのかを考える。実力テストもオプションを各自の必要に応じて受験するなど、基礎学力だけにとどまらず、応用的な力、大学などの進学を意識した学力を視野に入れた学習習慣を身につける。	・ICT デバイスを使い、連絡をこまめにしながら、自分で学習スケジュールを管理することを目標とする。 ・学校での授業はもちろん、家庭学習などの「自主的な学習」時間を増やしていく。	1. 朝礼時に iPad を利用しながら、当面の予定を確認する習慣をつける。 8. iPad など、デジタルと従来型手帳のアナログの両方を上手に使いながら、学習や学校生活を自律的にしてくれるよう促した。 3. 土曜日3時間目の「課題学習」の時間を有効に活用する。Classi の学習動画利用などを通じ、自分に合った学習内容・学習材料を各自で用意し、自主的に取り組む。	B	・自分の進路がある程度明確になっている生徒は、勉強のパターンができてきたように思える。昨年と同様、基礎的な学習は、普段の授業にまじめに取り組むことで、ある程度達成できているが、それ以上の家庭学習の時間はまだまだ不足している。とにかく学習時間を増やす良い方策を考え続けたい。 ・課題学習の時間は、ほぼ私語はない状態で学習できた。この感覚を家庭まで延長できる工夫がさらに必要である。
	総合・探求	「進路（生き方）、東北（震災・今考えること）」	・「進路（生き方）」 高1よりの継続課題である。近い将来（進学先など）を考え、具体的に調べること、 長い目で見た、自分の生き方（人生）を考えること、 という2つのテーマを取り上げる。 ・「東北（震災・今考えること）」 震災を単なる過去の出来事としてとらえずに、今を生きる私たちの問題と考える。 答えは出ないかもしれないが、答えが出ないことが考えなくてよいということではない。まず考え始める、と言うことを最重点項目とした。	1. 1 学期 4 月には業者（TAP）と提携し、校内 OC を実施。40 の大学・短大・専門学校より入試担当教員・職員を迎えて説明を聞き、具体的に自分の進路を考えるきっかけとした。また、生き方をめぐっては、LGBT の視点を持ち、また阪神淡路大震災を経験した僧侶・柴谷さんのお話を聞いた。また東北修学旅行を前に、阪神淡路大震災で松蔭では実際にどのようなことがあったのか、犠牲となった在校生の保護者はどのようなことを考えたのか、あるいは当時の教職員はどのように振舞ったのか…などを生徒と共有した。 2. 2 学期には映画『心の傷を癒すということ』を鑑賞し、阪神淡路大震災時に活動した在日コリアンの精神科医の目を通して、震災が引き起こす問題や生き方考える機会を持った。また顔に痣を持つ人の視点を通じて、差別やいじめ、生き方について考える講演（ユニークフェイス）を聞いた。 11 月の奉仕活動の日に向けて、フードバンク関西の協力を得ながら、私たちのすぐそばにある社会の問題にふれ、またフードバンク活動に実際に協力する試みを行った。 3. 2 学期後半から 3 学期にかけては主に進路について考える機会を持った。	A	●コロナの影響で高1時には、ほとんど進路関連の総合・探求の時間が持てていなかった。が逆に生徒たちには新鮮だったのか、食い入るように説明を聞いていたのが印象的だった。進路情報も量を与えればよいというものではなく、適度なタイミング、生徒の「情報が欲しい」という気持ちが生れるような環境づくりが必要である。 ●新型感染症流行により東北修学旅行は中止となったが、震災を通じ、（単に防災・減災の視点ではなく）災害などの苦境の中で人はどうあるべきかについても考える機会を持てた。修学旅行中止については残念であったが、震災を通して、さまざまな問題を考えることができたと考え。 ●先達・先輩の話聞きながら、今自分にとっての人生の課題は何かを考え続ける姿勢、また成功・失敗に関わらず、その課題解決に向けて努力を惜しまない姿勢を大切にしたい。昨年同様、たとえテーマが何であれ、人間とし

				先輩たちの話から学ぶ「進路ライブ」、また自分の経験や意見を上手に伝えるための「文章の書き方講座」、その延長としての「志望理由書講座」を実施。業者の添削をうけながら、国語の授業とは違う視点で、文章を書くことを学んだ。 また、性教育講演会としマナ助産院・永原先生のお話を聞き「いのち」についてあらためて考える機会を得た。		て大切なことはそれほど多くはない。自分を大切に、そして周囲の人・他人を大切にするという、当たり前のことを当たり前に考えられる人間に育ってほしい。そしてそれぞれの「人生の課題」に立ち向かっていけるよう、励ましを与えられるような企画を工夫していく必要がある。
	学年行事	校外学習	・教室を離れ、のびのびと社会に触れる。 ・特に高校から入学してきた生徒たちが、在校生と知り合える機会をできるだけ確保する。 ・修学旅行を通じて、東北の歴史・自然に触れ、また震災についての学習を行う。	・コロナ禍で、実施が危ぶまれていたが、秋に京都・嵐山で校外学習を実施。現地集合・現地解散、グループ別自由行動など、可能な限り制約・制限をなくし、自律的に行動できるように企画した。 ・修学旅行は新型コロナウイルス（第5波）の為に中止となった。代替旅行（スキー研修）も第6波により中止となり、事実上修学旅行は実施することができなくなった。	B	・あまり経験のない現地集合、現地解散であったが、大きな混乱もなく、また天候にも恵まれ楽しい1日となった。やや羽を伸ばしすぎたきらいもあり、風紀面で気になる生徒が若干名いたのは残念であった。 ・コロナ禍に振り回された感がある。代替旅行も中止となり、これ以上の企画もなかなか困難な状況である。

高校3年

学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校3年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「門を叩け、さらば開かれん Knock, and it shall be opened unto you.」	・目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。	B	さまざまな場面で、もう少し、主旨を理解させ、浸透できるように啓発した方が良かった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。教員一丸となって取り組む。	・どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 ・生徒の様子を常に見守り、生徒としっかりと関わる。 ・学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 ・クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 ・保護者との信頼関係を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。 ・週に1回の学年会議（生徒情報）で、日々の生活面の情報交換を実施する。	B	・毎週の学年会議で、生徒情報の共有ができたことは、非常に良かった。指導事項に対しても、協力して取り組めた。 ・保護者との協力関係も電話・メールにおいて、ある程度築かれている。
	学習指導	高校3年生としての学力の定着と進路に向けた活動を通した学習意欲の向上	必要な学力を定着させ、さらなる学習意欲の継続・向上を促す。 自主的な学習ができるように促していく。 進路に向けて具体的に組み始めるよう、さまざまな情報を与える。 Classi を活用し、ポートフォリオを作成する。	・朝礼前の5分を「学びのとき」とする。課題は各自が設定し、自学自習とする。 ・1学期、土曜日の3時間目は、各自課題に積極的に取り組む時間とした。 ・英語検定・漢字検定も取り組む。 ・長期休暇中も必要な講習を実施する。 ・平日も必要な講習を実施する。 ・必要に応じて面談を実施し、個々に応じたきめ細かい指導を行う。 ・自習室の積極的な活用を促す。	B	・学びのときは、早くから登校して取り組む生徒と、ギリギリに登校する生徒の2極化となった。健康観察の入力後、自学自習が中心となった。 ・英検・漢検も積極的に受験を促した。英検は、受験に必要な級の取得に向けて取り組んだ。 ・講習は、受験に必要な科目を設定し、休暇中のみならず、平日も個別に対応して実施した。 ・個別設定によって、多くの先生方に時間をいただいたが、生徒にとっては良い環境であった。

	進路指導	目標設定と学力向上による進路実現	高校３年生で目標を明確にし、進路実現に向けた学習意欲の向上に必要な学力の定着を促進する。	・進路説明会 ４月に実施し、年間予定を伝える。 ・進路調査 年に３回（４月・７月・９月）実施し、その都度進路に向けた個人面談を実施する。 ・実力考査 全員受験の実力考査を年に３回（４月・５月・９月）実施する。また、オプションとして追加受験も設定する。 - 希望者の共通テスト模試や記述模試も実施する。 ・校内オープンキャンパス 看護医療系ガイダンス・松蔭大説明会・外部大学や専門学校の入試説明会を実施する。 ・小論文対策 入試で小論文が必要な生徒に対し、個別指導を行い、小論文模試も実施する。 ・指定校推薦決定者への指導 進路に関する本を読んで、レポートを作成・提出させる。指定校進学に関して、必要な補習科目があれば実施する。	A	・４月の学年集会時に、進路説明会を実施した。 ・進路調査後はそれぞれ個別に面談指導を実施した。 ・通常の実力考査を実施し、さらに必要な生徒は追加受験（数・理・社）を実施した。 ・希望者による共通テスト模試・記述模試も実施し、国公立や難関私大を目指す生徒は受験した。 ・校内のオープンキャンパスでは、興味ある学問分野や大学の説明を聞き、積極的に取り組んだ。 ・看護医療系や内部推薦は、志望者が積極的に受講していた。 ・小論文の必要な生徒は、個別にしっかりと取り組んだ。小論文模試にもチャレンジした。 ・指定校推薦決定者には、３冊の本を読ませ、それぞれのレポート作成を課題にした。熱心に課題に取り組んだ。
	総合探究	文章の書き方トレーニングと論文作成	文章の書き方を学び、最後は、各自のテーマに基づいた論文を作成する。	・トレーニングノートによる文章の書き方を学び、意見作文テストを実施する。 ・論文作成において、図書館レファレンスを実施する。また、中間発表等でグループシェアリングを実施し、最終的にはデータ入力させて提出させる。	B	・テキストを中心に文章の書き方を進め、意見作文のテストもしっかりと受験した。 ・論文は、小グループでシェアリングや発表を経て、最終的にはワード等にて入力して提出を求めた。
	学年行事	遠足	自然に触れ、友人との親交を深めるように促す。	布引ハーブ園への遠足を企画する。	D	・コロナにより遠足は中止となった。
		３学期のプログラム	３学期プログラム １）必須プログラム ①進学補習 ②Blue Earth Project ③探究レポートプログラム ④体験プログラム（シーボンアート） ２）選択プログラム ①図書館司書体験 ②ゴルフ体験実習	・受験継続者は共通テストをはじめ、一般入試に向けて各自の進路に合わせた進学講習を受講した。 ・指定校の進路決定者は「Blue Earth Project」か「探究レポートプログラム」のいずれかに参加を義務づけた。 ・進路決定者の中から希望者をつのり「女子高生が社会を変える」をキャッチフレーズに、環境問題の活動に取り組むBlue Earth Projectを行った。 ・テーマ「海洋プラスチックゴミ削減」 ・選択プログラムは、これまで通り、２種類で実施した。	A	・受験継続者は、進学補習に熱心に取り組んだ。 ・Blue Earth Projectは、学外イベントが中止となっていく中、校内でのステージ及びブース活動を設定し、有意義な活動を体験できた。外部で啓発活動を実施できなかったが、生徒の意識は高まった。 ・探究レポートもテーマに沿って、レポートをパワーポイントで作成し、発表の場を持った。最終的にペーパー以外にもデータでの提出を義務づけたが、よく頑張っていた。 ・選択プログラムは、少数であったが積極的に参加した。

2021 年度 学校自己評価（校務部）

教務部 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教務部	教育課程	教育課程の作成	Ⅰ．基礎的な学力を身につけさせる。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、定期考査後の補講（学力下位層への指導）などによって、生徒の基礎学力の修得に力を入れた。 中学Ⅰ年生・高校Ⅰ年生はICTデバイスを個人所有として導入し、生徒のよりよい授業理解のために工夫をした。 コロナ等による出席できない生徒には、Teams や Zoom 等を活用してオンラインでの在宅学習をフォローした。	A	オンラインによる在宅学習について、更に整備をすすめる。 引き続き授業改善に努めると共に、学力下位生徒への学力指導について検討をすすめる。 新高Ⅰより高校指導要領が始まることに伴い、新指導要領の３観点を意識して、授業づくりに取り組む。 ICT も積極的に活用する。

			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	英語・数学で中3以上では、グレードクラス、特別クラスを編成した。高校では選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。中1・中2では、数学の能力・意欲が高い生徒対象に特進講座を設定した。英検対策講座は水曜日、高校2・3年生対象校内予備校は月曜日と土曜日に、それぞれ希望者に対して実施した。長期休暇中の講習も2021年度は積極的に設定できた。	B	コロナ禍の状況を見ながら、各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。 2021年度より進学補習が高校全体で認められたため、さらにプログラムを拡充させる。 特に高1DS特進について、ポリシーを意識した適切な指導を行う。 ICTも積極的に活用する。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回計画した。学習意欲の向上をはかるため、英語検定や漢字検定などを実施した。 中学3年生には現時点での自分の学力を意識させるため、全国学力・学習状況調査や基礎学力判定試験を受験させた。	B	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、よりよい対応を考えていく必要がある。また、新しい指導要領に基づいた適切な評価が出来るよう、各教科での準備を促していく。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習・探究の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。また、主体的な学びについての研究を進めてもらうよう促した。 高2・中3修学旅行や留学プログラムなど、校外での様々な体験・事前学習等の機会を計画した。(ただし、コロナ禍のため高2修学旅行は中止になった。)	B	総合的な学習の時間の取組において、生徒が主体的な学びを実践できるように各学年で改善を加える。 特に中3総合・高1言語探究については、週2時間となるため、より深い学びとなるよう、外部の力も借りながらすすめる。
			研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	昨年度、導入したMicrosoft365 Teamsを松蔭中学校・高等学校のオンライン授業のメインアプリとした。 よって、使用方法の動画を作成し、それぞれの教員がTeamsのグループを作れるようにした。
国 際 理 解 教 育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせる。	1学期には、ニュージーランドのセント・ピーターズ校との春季短期交換留学も聖明女子中学校の来校も新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。夏休みのセント・ピーターズ校への生徒派遣も、信明高校・聖明女子中学校への派遣も中止された。聖明女子中学校とペンフレンド交流を、信明高校とオンライン交流を行い、親交を深めた。 7月には本校の外国人教師3人で1-Day English Campを、12月には2泊3日のYolo English Campを行い、異文化と言語の理解を深めた。 3学期には、信明高校からの来校が中止された。	B	いつも行うプログラムが新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。来年度に向けて、来年度も中止される場合は、代替の国内プログラムを準備する。ニュージーランドのセント・ピーターズ校や韓国にある姉妹学校（聖明女子中学校と信明高校）とも、交流を図るよう改善を進める。	
芸 術 文 化 教 育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2021年度は演劇鑑賞を企画していたが、新型コロナウイルス感染症に伴う対応として中止となった。2021年度に予定していた演劇鑑賞は2023年度に再度企画することとなった。	D	来年度は音楽鑑賞がテーマの年となり、2020年度に中止した「舞太鼓あすか組」の鑑賞を企画している。感染症対策のため、来年度は神戸文化ホールの大ホールを利用する。	
学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、様々な学校行事を計画したが、コロナ禍のために中止または変更を余儀なくされた。 体育祭は中高別に、球技大会は2学年ずつに時間帯を分けて実施した。文化祭は「中3～高3」と「中1～中2および保護者」対象の2日間で開催した。中1キャンプは1泊2日に変更して実施した。中3修学旅行は代替日程で実施した。 残念ながら、中2英語研修・高2修学旅行等は中止となった。	B	感染症対策に留意しながら、可能な限りの行事を実施できるよう検討する。ただし、年間の各種行事のバランスを検討することも必要である。	

生徒部（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	・担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。 ・頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」の指導を学年中心に積極的に行う。 ・状況に応じて、服装検査を実施する。	B	日常的な指導を各教員がおこなっているが、定期的に検査をおこなうことも検討しなければならない。
		登下校のマナー	・交通ルール及び公共のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行	・日常的に登下校指導の実施。 ・歩きスマホをしないなど具体的な内容の指導の徹底をする。 ・関係機関と連携しながら補導活動（バス列車補導も含む）を定期的を実施。 ・教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	随時、指導はおこなっているもののなかなか生徒の行動に反映されていない。特にコロナ禍の中公共の場でのマナーは徹底させたい。
		ICT端末についてのマナー	・校内のルール（指定された場所・時間以外出の利用禁止など）の遵守	・ルールの徹底 ・各教員の積極的な指導・声かけを実施する	B	スマホ以外にも、ICTデバイスを使用するようになり、使用の仕方、使用の場面の区別をさせなくてはいけない。
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	・移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	A	被害件数がゼロであった。次年度以降も続けていきたい。
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 特に、インターネット、SNSの利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNSなどの不適切な書込については、発見次第随時指導する（スクールガードアクションにも依頼）。	B	コロナ禍の中、実施することができなかった。講演会以外でも情報提供していくことが今後必要。
生徒部	美化指導	校内美化・清掃の推進	・トイレ・教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	・使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除をきちんとおこなう。 ・大掃除では、各クラスの役割分担を美化委員が考える。 ・行事のとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、トイレ掃除はおこなうことができなかった。行事では体育祭のみ、各クラスに呼びかけをし、運動場で使用した椅子の脚拭きをおこなった。次年度以降も可能な範囲で活動をおこなってく。
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。 ・美化委員はリサイクル処理をおこなう。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、美化委員が担当するペットボトルのリサイクル処理ができなかった。
生徒	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	・あいさつ運動の継続。 ・マナーアップキャンペーンやあしなが奨学募金など外部のボランティア活動への積極的な参加。	B	可能な範囲でのあいさつ運動の実施。各学校行事のお手伝いをおこなった。次年度も継続しつつ可能な範囲で活動の幅を戻していく。
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	・体育祭運営をよりスムーズに行う。 ・競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 ・文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 ・その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	文化祭では、舞台鑑賞の時間・展示の時間をわけ文化部の活動をしっかり一般生徒に鑑賞させた。今後も継続していきたい。 体育祭は昨年同様種目数を絞り、中学生と高校生で午前・午後に分けて実施した。次年度も状況に応じた実施の仕方をしたい。

部		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	・評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ・ゴミの分別を確実に行う。 ・生徒会関係冊子の充実に努める。	B	コロナ禍の中、十分な活動はできなかったが各委員会工夫しながら活動した。
生徒部	安全教育	防火管理体制の整備 自衛消防の努力	年３回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防災火意識を高める。	・予告しておこなう訓練と抜き打ちでおこなう訓練とを行い、どちらの場合でもきちんと避難できるようにする（地震発生想定訓練を含める）。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。 ・南海トラフ大地震を想定した、防災教育を開始する。	A	３回の訓練を通して、非常時の動きの確認、防災意識の啓発をおこなった。継続して意識の向上をはかる。
		校内危機対応意識の啓発 不審者への対応	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	・教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	日常生活における防犯意識を持つように働きかける。
		全校生徒（特に自転車通学者）への安全意識の啓発	全校生徒を対象に年１回の講習を行う。	・自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、外部講師または啓発DVDを使用し、登下校時の交通安全意識を高める。	A	自転車に乗る人も乗らない人も、交通安全意識を高めるよう働きかける。
		応急処置の意識の啓発	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	・年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	７月に実施。継続して緊急時の応急処置に備える。
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を正しく理解する。	・性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の６年間に年１回は性教育を実施する。中学１年・２年・３年生、高校２年生では性教育講演会をおこなう。中学２年生、高校１年・３年生では、保健の授業で取り扱う。また、総合学習や他教科とも連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。	A	新型コロナウイルス感染症の影響による対応が必要であったが、全ての学年で予定していた講演会を実施することができた。

宗教部
 （
 A
 よくできた
 B
 できた
 C
 あまりできなかった
 D
 できなかった
 ）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教	日常礼拝の実施	講話者当番	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る。 多様な方々に話をしてもらう。	・学校行事等の時期も考慮に入れ、副校長や当番学年へ事前連絡をし、担当日を決めてもらった。 ・体育祭後に写真部の協力によりメモリアルスライドショーを行った。	B	教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々等にもっとお話ししていただけるようにしたい。
		奏楽者当番	学校行事や式典の奏楽者を手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。	・学校行事や式典が決定次第、手配した。	A	奏楽者への事前確認を直前に入れるようにする。
		生徒の参加に関する指導等	定時から落ち着いて礼拝が始められるよう指導する。	・礼拝前に心を落ち着けて礼拝を始めることができるように指導した。	A	早めに講堂へ集合し、静かに礼拝を待つという体制は、できてきたように思われる。
		日常礼拝の見直し	日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。	・かつては毎朝おこなわれていた礼拝のメリット、デメリットを考え、よりよい礼拝の形と回数の検討を重ねた。	C	日常の学校生活の様子を見つつ、礼拝の回数を増やせるように検討を今後も続けて行く。
	特別礼拝の実施	説教者の選定	それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。	・それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていた。いただいた。	A	幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。
		オルガニスト・聖歌隊手配	活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。	・参加が決まり次第、正式な依頼を行った。	A	連絡を密にとって、これからも連携していきたい。
		式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文をチャプレンが作成・準備した。	・各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	滞りなく準備ができた。
		礼拝形式	様々な形式での礼拝を行っている。	・イースター礼拝は、日本キリスト教団神戸東部教会の古澤啓太牧師に依頼した。 ・Ⅰ学期・宗教週間の特別礼拝のお話は神戸松蔭女子学院大学のチャプレンに長田司祭に依頼した。	A	それぞれの礼拝を守ることができたのはよかった。 次年度以降もどのような形式での礼拝がいいのか検討を続けていく。

			・2 学期宗教週間の特別礼拝は、広島平和礼拝が実施できていない中、平和教育・署名活動の意義等を伝えるべく、広島女学院 OG、並びに生徒さんにお話を依頼した。 ・クリスマス特別礼拝は中高別にキャンドルサービスを実施し、日本聖公会明石聖マリアマグダレナ教会の林司祭にお話を依頼した。 ・奉仕の日の開会礼拝は、ZOOM を用いてレオノラチャペルから配信で行った。 ・震災記念礼拝は、講堂に全学年を入れて行った ・礼拝の献金は各種団体に送った		
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	朝の祈り、ヌーンサービス、お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念の祈りを行った。	B	これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していきたい。新たな企画や改革も行いたい。
宗教部企画の諸行事の実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなるようなプログラムを企画立案し、生徒に提供する。	・1 学期の宗教週間中は、オルガンコンサートを行った。 ・2 学期の宗教週間中は、レオノラチャペルで松ぼっくりクリスマスツリー、クリスマスリース作り、広島女学院生徒たちとの交流会などを行った。 ・にじ作業所のパンの販売を実施した。 ・図書館との協賛でブックリサイクルを行った。 ・2 学期の宗教週間には近隣の教会の牧師を招いてクラス講話をレオノラチャペルで行った。 ・3 月 11 日の東日本大震災の日の放課後、近隣の記念碑を見て回る「震災記念碑めぐり」を計画した。	B	コロナ禍の中、一部再開したものの、例年の活動は十分できなかった。今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。また、新たな企画についても立案・開拓していきたい。
	オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	・レッスンは、計 9 回行う事ができた。また、レッスン生補充のためのオーディションは、1 学期末 2 学期始めに行った。 ・ ・聖ミカエル教会でのレッスンは、コロナ禍ということで実施できなかった。 ・レッスン生には 1 学期と 2 学期に礼拝奏楽奉仕をしてもらった。	A	コロナ禍で感染予防対策をしっかりとった上、再開できたのはよかった。 チャペルのオルガンの購入を本格的に考えていく。(卒業記念品として費用を積み立て中)
各奉仕活動の実施	・特別養護老人ホームきしろ荘の訪問 ・各教会バザーの参加 ・災害支援キャンプの開催 ・にじ作業所の支援パン販売の実施	・施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるプログラムを考える。 ・苦しい状況にある人々を忘れない。	・長年行ってきたきしろ荘での諸活動は、先方施政の都合によりできなくなった。 ・「オープンスクール」の時に行っていたチャリティ売店は、コロナ禍で実施を見合わせた。 ・春休みの「ワーク・キャンプ」はコロナ禍のため企画しなかった。 ・コロナ禍で販売場所が制限されたにじ作業所(パン工場なないろ)を支援するため、11 回の支援パン販売を企画したが、7 回実施できただけで、4 回は感染拡大のため中止となった。 ・神戸聖ミカエル教会、神戸聖ヨハネ教会でのバザーも中止となり、参加出来なかった。	C	・奉仕活動のほとんどが、新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。 ・新しい訪問場所や関わり方について、今後検討していく。
体験学習の実施	真生乳児院の育児体験	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。	・1・2 学期、土曜日の午後を実施したが、今年度はコロナ禍の中、すべて実施できなかった。	—	コロナ終息後の再開に向けて今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。

	人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画立案する。	・外国人の人権問題というテーマで今回は、猪飼野セツパラム文庫主催の藤井幸之助氏に講演をしてもらった。講演後ミニ感想文を書いてもらった。また、事前には礼拝において人権に関するお話を人権主任にしてもらった。	A	多文化共生が言われる中、現実の世界で色々な立場、特に国籍が違う者を認める大切さを再認識するよい機会となった。生徒からの感想も率直なもので好感触であった。今後もさまざまな啓発を続けていきたい。
		啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	・人権講演会にあわせて講演会の予告を『チャペルニュース』に掲載した。また、生徒のミニ感想文を機関誌『青谷』に載せ、紹介した。	A	今後もよりよい形で、啓発活動を続けていきたい。
		教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	・教職員人権研修会として、8/30 に李洙任(イ スム)先生に、2/21 に徐民夫先生に講演会をして頂いた	A	両講師共、実際の民族差別に関する様々な事例を挙げ、分かりやすく国籍が違う者を認める大切さを教えてくださった。
	宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教に対する興味や関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりに共感することができるようなプログラムを企画・立案する。	・例年、8月5日～6日に神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画していたが、今回も中止となったため、聖ミカエル教会にて「広島平和の祈り」を企画し、参加生徒を募って行った。中学生1名高校生2名が参加した。 ・2学期・宗教週間後、広島女学院が行っている核廃絶の署名活動を支援するため、全校生徒に署名用紙を配布し協力を呼び掛けた。	A	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動を積極的に行い、生徒の参加を促していきたい。
	啓発文書の発行	『青谷』の発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	・今年度末での退職者をはじめ、さまざまな方々に広く原稿依頼を行った。 ・生徒の感想なども取り入れた。	B	原稿は集まったが、偏りが出来てしまった。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう、内容も含め今後検討をしていく。
		『チャペルニュース』の発行	定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。	活動写真などもおりませ合計6回、発行した。	A	活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていきたい。
		「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	・年間聖句および、5月から月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計8回、各教室と廊下、体育館、事務室前、バス道掲示板等に掲示した。 ・聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。	B	予め一年間の聖句を書道部に渡すことができた。 今後も適切な聖句を選び、生徒に紹介していきたい。
	関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。	・東日本大震災の被災地支援(磯山聖ヨハネ教会・磯山みかんの会) ・広島で平和活動を行っている平和のためのヒロシマ通訳者グループへ・シュモーに学ぶ会へ献金をおこなった。	A	特別礼拝、クリスマス礼拝の講話者に関わる施設をはじめ、必要とされる場所に献金、人的支援ができるようにしていきたい。

総務部 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックした。書類は事務所の担当が打ち込み、随時、総務部でチェックした。個人情報流出防止に細心の注意をした。	B	事務室から受け取った写しを整理する。 住所録作成時のミスがないようにダブルチェック体制をとる。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数等を把握する。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	全学年分を入れ替えることをめざして導入計画を立てる。 多数の机を移動する行事が終了した直後に教室の点検をする。
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われている活動（部活動・補修など）を掌握する。	通常利用一覧表を掲示し、月別の放課後教室利用を共有のエクセルシートに、使用者に入力してもらった。	A	通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。 クラス数減少に伴い、長期にわ

			長期休暇中の教室利用を調整する。	利用頻度が高い場所については、校内イントラネットを活用して予約が重ならないようにした。長期休暇中については、事前に教室使用希望調査をおこない、調整した。		たり使用頻度が低くなっている教室等の有効利用を検討する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の４部署に翌月の使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	A	校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に各部署の利用予定を掌握する。
		不良箇所の補修	事務部・施設管理係との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	B	定期的に、校内の点検・見回りをする。 各学年と連携し、早めに状況を把握する。
	備品	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	A	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、コストダウンに心がける。
		事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫する。 ＩＣＴデバイスの活用により印刷を削減し、紙類の使用を減らす。 その他、ゴミの削減に努める。
	広報	ホームページ（学校の広報）	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。 全面的なリニューアルを行う。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。 SNSの活用を開始した。 10月1日をリニューアル日と設定し、制作した。更新の頻度をあげた。 緊急・災害時の対応も整理した。	A	学校活動の活発さをより効果的に発信する対策・方法を工夫していく。
		ハンドブック（校内のルール・約束事の周知）	現状に合うように加筆・訂正する。	各部署に原稿の作成（訂正）を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。
		学校報（一年間の学校の記録）	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真等を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。
	資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。	B	古い資料の整理を進め、系統的な整理に努める。 今後の資料の整理・保存についても検討する。
	総務・渉外	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	A	設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。
		バザー ※「奉仕活動の日」として行った。	学年やクラス単位で独自の社会貢献を考え取り組む。	従来のバザーは感染症の影響で中止とし、「奉仕活動の日」として、近隣の清掃活動やSDGs関連の取り組みなど、学年ごとに計画した活動を実施した。	B	年度途中の提案、計画、実施となったため、取り組みにくかった面があった。今後、新しい行事としての可能性を考えていく必要がある。
		緊急連絡システム	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。 必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	A	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。

進路指導部（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
		進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	卒業生・外部講師による講話や高3生徒による進路ライブなど、生徒に考えさせる機会を作る。	B	2021年度卒業生には進路アドバイザーとして多く登録していただいたので卒業生も積極的に活用できるよう環境整備していく。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図る。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。

進路指導部	進						
			自習室を積極的に活用できる様にする。	各クラスで自習室の利用の仕方ならびに積極的に活用するよう生徒へ周知する。	C	生徒への周知不足による活発な活用ができなかったことをふまえ定期的にアナウンスしていく。	
	路	進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1総合探究の時間をはじめ、進路学習を系統的に行う。中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行う。オンラインでのガイダンス等も活用する。	B	COVID-19の影響が続く中での効果的な進路研究の方法について検討する。	
			実力考査の定期的に実施し、進学指導に生かす。	実力考査および、高校生のための学びの基礎診断（スタディーサポート）を実施する。	B	今後に向けて実力考査の方向性は確認できた。しかし進路指導に有効に生かしていく方法について検討する。	
			実力考査の計画的な実施。	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝える。	B	採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。	
			大学入試制度改革への対応。	情報収集に努め、生徒保護者集会などを用いて説明する。教員への情報提供も行う。	A	新課程入試に向けて引き続き情報収集と情報提供に努める。	
	導	キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	Blue Earth Project チームYの高1では「気候変動」をテーマに全国の Blue Earth Project 参加生徒とオンラインでエコブース企画を相互プレゼンをした。高2では「生物多様性」をテーマに全国の水族館にインタビューをして啓発動画を製作し、東京湾大感謝祭やグリーンチャレンジデイの web ページで発信した。また、11月には神戸どうぶつ王国で2年ぶりの対面イベントを実施した。	B	コロナ禍の中でもオンラインシステムを活用した活動ができ、コロナの感染状況が落ち着いた間隙を縫って2年ぶりに対面イベントができたが、本来の活動目標とする啓発活動（アウトプット）がコロナ禍により十分には行えなかった。オンラインスキルも生かしつつ、次年度こそは対面イベントの実施が待たれる。	
			社会や自然とのつながりを	高3では「海ごみ削減」をテーマに、須	B	本来の活動目標とする啓発	
	部	部					

			実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	磨海岸でビーチクリーンイベントをしたり、マイボトルを気軽に持ち歩けるライフスタイルを目指して給水キャンペーンを阪急西宮ガーデンズの飲食店に協力依頼をしたりした。イベントは校内でステージ啓発とブース啓発をした。		活動（アウトプット）がコロナ禍により十分には行えなかった。高3から初めて活動を始めた生徒に対して集中的にスキルアップを図ることや、リーダー集団へのリーダーシップの育成等、これまで以上に手厚い指導の模索をしたい。次年度こそは対面イベントの実施が待たれる。
--	--	--	---	---	--	---

入試広報室

（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入 試 広 報 室	生徒 募集	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	感染症に気をつけながら、一部内容を変更して実施。	B	他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。
		中学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、本校の教育内容を的確に説明した。毎回、紹介する内容がかわるようにした。	B	2回目、担任教員・保護者の方・卒業生の話。 適切な時期を検討する。
		授業見学会	授業の様子を見ていただく。	松蔭独自の授業をご見学いただくようにした。中学と高校にわけて実施。	B	HPなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
		クリスマスの集い	冬のオープンスchool的イベントとして小学生・中学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を経験してもらう。	小学生・中学生のみなさんを楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	A	演劇部を中心に、多くの生徒の活動を紹介した。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、松蔭での学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていたき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。 感染症のため芦研模試は中止	B	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。
		外部説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月・11月に宝塚・明石・西神南・阪神西宮・三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	なるべく日曜日に実施した。
		個別相談会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置。 ご希望の方には校内をご案内。	B	この時期には併願校をご検討する方がいらっしゃるののでつづけていきたい。
		学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」が見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	3月に「神戸東地区4校合同説明会（神戸海星・甲南女子・親和・松蔭）、10月にプール学院・松蔭 塚口合同説明会を実施。	B	他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。
	関連 事項	E L S 講座	2ストリーム制の設置に伴い、校内で小学生対象の英語講座を設置した。	2つのレベルを設定し、幅広くご参加いただけるようにした。	A	講座参加児童の入学も増えてきた。より参加者数を増やし受験に結びつけたい。
		個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な応対によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な応対を心がけた。	B	個別見学の申し込みをしやすくするよう、HPなどで呼びかける。

		オンライン個別相談会	感染症のため外出を控えておられる方にも松蔭の教育内容を知っていただき、ご相談できるようにする。	感染症の影響ではじめる。申込制でZOOMを使って個別のご相談	A	年間を通じて複数回実施、ご参加数は多くはないが、一定数のお申し込みはあった。
		プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもっていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	多くの方に受験していただけるよう対策を考えたい。
		課題図書プレゼン入試説明会・課題図書プレゼン練習会	新規で実施する、課題図書プレゼン入試の説明会を9月・12月に2回、本番へ向けての練習会を12月に実施。	入試の内容をわかりやすく説明。入試へ向けてどのような準備をすればいいか、できるだけ具体的に説明。	B	課題図書プレゼン入試を実施していることを多くの方に知っていただく。
		英語面接練習会	英語入試（GS）での受験をお考えの方に、より受験の意欲を持っていただけるようにする。	本番と同じ形式で個別に面接を実施、同時にアドバイスをする。	A	2回に分けて実施
		オープンハイスクール	中学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	オープンスクールと同時に、はじめて実施した。	A	今後、オープンスクールと別日程での開催を検討する。
		高校入試説明会 高校入学相談会	高校入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	制度を詳しく説明した。特に途中入学への不安について。在校生と話をする機会を設け、直接、細かなご質問をしていただけるようにしたい。	B	感染症のため、在校生と個別に対面でお話しいただく機会をあまりつくれなかった。
		学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	撮影の機会を多く設けることができなかった。
		中学受験雑誌記事など	松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌記事掲載など	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	教育活動の紹介手段の1つとして掲載した。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌広告・看板	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	2系統のバス、阪神電車、山陽電車北神急行に広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
		学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	入試関連情報・イベント日程などを掲載した。	B	外部説明会など細かく情報を出した。HPリニューアルにより観ていただきやすくなった。
		ノベルティグッズ等	小学生・中学生が魅力を感じるグッズを提供する。	巾着袋、ファイルを卒業生にデザインしてもらった。	B	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生・中学生に喜んでもらえるものを検討する。
		塾訪問	塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	C	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
		中学校訪問	松蔭が高校入試を実施していることを多くの先生方に知っていただく。	高校入試用にチラシ、ガイドを作成。女子生徒への配布を依頼。	B	今年から併願入試を実施、来年からのコース募集にむけて、より認知を拡げる。
		公立中学校の先生方対象、私立高校説明会	松蔭の高校入試の概要を知っていただく。	10月に神戸市、加印地区の説明会に参加した。	B	他の地区でも説明会があれば積極的に参加したい。その後の中学校訪問につなげたい。
	学外教育機関への広報	塾対象説明会	教育内容を説明し、通塾生、その保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。ストリーム制、高校入試について説明。	B	ご参加人数が減少してきている。塾の先生方にも興味をもっていただけるように工夫したい。
		模擬試験会場	受験生・保護者の方に松蔭を知っていただく機会とする。	感染症の影響で2回とも中止。		プレテスト同様、入試本番に近い形で受験できるようにする。

読書運動委員会・図書館

（ A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった ）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第52回）	・読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2021年度は「希望」。 ・テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 ・教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。 ・生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 ・優秀作を図書館に展示。	A	今年度のテーマは「希望」。 委員の教員が会議で話し合い、「コロナ禍で種々の変化に振り回され、大変な状態が続く昨今。一方で、人と人との絆・世界融和を夢見て閉塞感を打ち破る新しい風を期待して、活路を見出そうとする気運も高まってきている。このような時代であるからこそ、読書を通じてそれぞれの夢や『希望』を見つけ、力強く自立した生き方をしていく契機にしてほしいと思

			読書感想文作成 ・図書館展示終了後、優秀作をポプラ社の POP コンクールへ応募。 ・国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 ・感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を 11 月アセンブリーで表彰。 各学年の最優秀作品は、第 49 回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：入選：2 作、佳作 1 作。高校：入選 2 作、佳作 1 作。 入選の高校 3 年生の作品は、第 67 回兵庫県コンクール応募作にも選ばれた。 ・第 52 回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。		う。」などという理由で、このテーマに決定した。様々な形で「希望」を感じ取ることのできる推薦図書リストが完成し、全学年共通の「POP 作成」の課題も、各学年段階に応じた優秀作が提出された。 しかし一方で、読書に興味を持っていない生徒も少なくはない。一人でも多くの生徒が読書に対する興味を持てるように、今後も継続して教職員の協力を求めたい。具体的には、 ・日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 ・個人の嗜好に合わせた情報の発信。 ・読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。 ・読書運動冊子の活用法の検討。
		ゴールドカード・プラチナカードの表彰 その他	・この 1 年間に 50 冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを授与、2 月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー） 高校でさらに 50 冊以上読んだ生徒にプラチナカードといつても 10 冊借りられる特典と図書館クリアファイル授与	A	今年度プラチナカード授与者は 1 名。ゴールドカード授与者は中学 2 名、高校 1 名。うち 2 名はサタデーライブラリー出身。たくさん本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。
	生徒が図書館を有効に利用できるようにする。 生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。	総合学習等の調べ学習の際の利用。 授業での利用。	・各学年の総合学習のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示。必要時には司書が説明。 ・授業での利用 J 2 & J 1 G 探究「情報検索と著作権」H 3 総合学習「小論文資料集めの方法」ほか ・J 2 家庭科「絵本の帯づくり」 ・H 1 選択美術「クリスマスの絵をさがす」	B	各学年・各教科とのさらなる密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。教員側の意識をさらに高めることが課題。多くの教員が図書館に頻繁に来て、本を使った授業の工夫も行うよう促したい。

			・要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前（ぴえんの研究） ・図書や資料の見つけ方、調べ方・マナーも含めてプリントにし、配布。		
		図書館利用のルールを理解、遵守。	・新入生、転入生に対して、オリエンテーションを随時実施。 ・日常的な利用に際して、きめ細かい指導を実施	A	時間不足なので自習時間等別の時間を見て補う。
		広報等	図書館情報誌「はと時計」を発行。 本の紹介をはじめ、各種イベントの案内。今年7月から classi に新着図書一覧と、はと時計を配信することに。 ・絵本ボランティア、読書みくじ等の各種イベントを実施。 ・高3三学期有志参加プログラムの一環として司書体験 ・チャリティブックバザーの実施。今年は classi で呼びかけて保護者の参加も。売上げ全額をチャリティに。 ・図書館の公式 twitter、facebook instagram のアカウントを開設（SNS 運用方針を作成・決定後）	A	「はと時計」の益々の充実を目指す。積極的に楽しく読書活動ができる機会をさらに作りたい。
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	係による定期的な選書を実施・生徒からのリクエスト本について随時審議。	A	3年連続でジュンク堂への見計らい選書が実施できていない。 より多くの教職員からのリクエストが望まれる。さらに幅広い選書を目指す。